

# 平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	34130
政策名(章)	第4章 広域交流都市を形成します	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第1節 魅力ある広域交流拠点の整備	評価担当課	企画政策課
施策名	高次都市機能の集積	課長名	長沢博文

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

企業本社等の中核業務機能など、都市機能を集積することにより、相模原市が、広域的な都市圏における核を担う都市となることを目的とする。

## 2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		0	
人件費		0	
市民一人あたりの事業費	0	0	
合計	0	0	

\*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

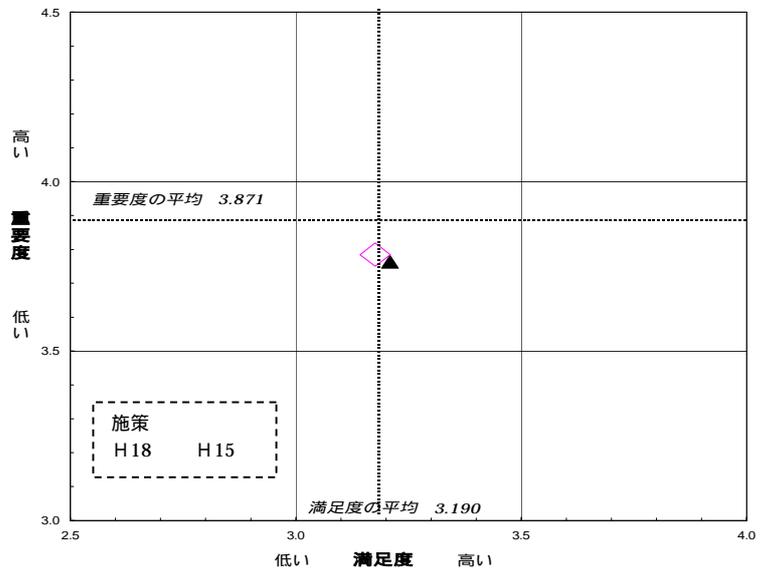
## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	市内に本社を持つ上場企業の数			
指標2	市内駅の1日あたり乗降客数	市内駅1日あたり乗客数 × 2	577382	H14
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1		H19		H21		
達成率	#DIV/0!					
指標2	600,000 / 614,832	H19	630,000	H21	650,000	
達成率	102.5					
指標3		H19		H21		
達成率	#DIV/0!					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

## 4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.176で51施策の中で25番目。  
 重要度は3.784で29番目である。  
 改善要望度は - 0.0520で27番目である。  
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。  
 重要度は70歳以上でもっとも高く、30歳代でもっとも低くなっている。  
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位に大きな違いはみられないが、重要度は上がっている。  
 満足度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に上がり、50歳代で大幅に下がっている。  
 重要度の順位では、70歳以上で大幅に上がっている。



## 5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 2 (1)	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 2 (1)	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2 (1)	
合計		3	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)
			1次評価 C

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

## 6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	企業にとって、例えば業務の中核となる機能を本市に進出させるメリットを客観的に示せるかどうか。また、高次な都市機能の明確な定義がないために、それを具備している度合いを測るのが困難。
解決策	例えば金融などの業務系機能の立地として、本市が客観的にどう評価されているか、現状を知る必要がある。

## 7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業が存在せず、施策の成果をあらわすことが難しく、施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 C
---	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

## 8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

施策目的を達成するために事業を具体化し、その成果の達成状況を測定できる指標を設定すること。事業を具体化するにあたっては、評価担当課を含め再掲事業のみである施策自体の見直しを行うこと。	3次評価 C
---	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



